

南に死にそうな人あれば行って怖がらなくてもいいと云い」と記した宮沢賢治はまさに菩薩だったのだ。この「菩薩」を「医者」に変えれば、これは学生時代に聞きかじったヒポクラテスの誓いの言葉ではないか。これといった修行もせず、ただ

ただ安易に口にしてきた「大丈夫」の何と軽かったことか。でも自身が「お疲れ様の場所」へ逝く際は、「大丈夫」という言葉を素直に受け入れて安心したい。